

(8) 近畿



近畿地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

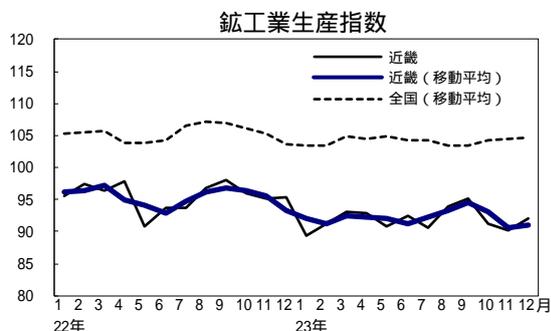
前回からの主要変更点

	前回(令和5年11月)	今回(令和6年2月)	
景況判断	緩やかに回復している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 2.3% 減となった。月別にみると、10 月は生産用機械が減少したこと等により前月比 4.1% 減、11 月は汎用・業務用機械が減少したこと等により同 1.2% 減、12 月は汎用・業務用機械が増加したこと等により同 2.2% 増となった。



(備考) 1. 2015年=100(全国は2020年=100)、季節調整値、近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学	12.4	6.0	4.8	5.6	7.0	10.6
電気・情報通信機械	11.7	3.4	2.5	3.3	1.2	2.3
汎用・業務用機械	10.4	0.5	2.1	3.2	9.8	11.1
生産用機械	10.1	4.5	5.0	18.7	16.0	1.8
輸送機械	8.7	11.4	3.0	10.9	3.3	16.4
鉱工業	100.0	1.3	2.3	4.1	1.2	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

2. 個人消費の動向

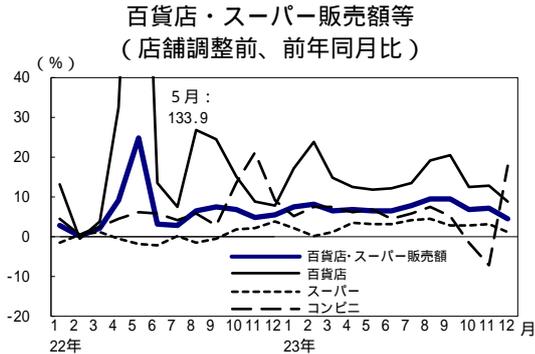
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12月期は前期比0.0%増となった。月別にみると、10月は前月比0.7%減、11月は同0.6%増、12月は同0.3%増となった。

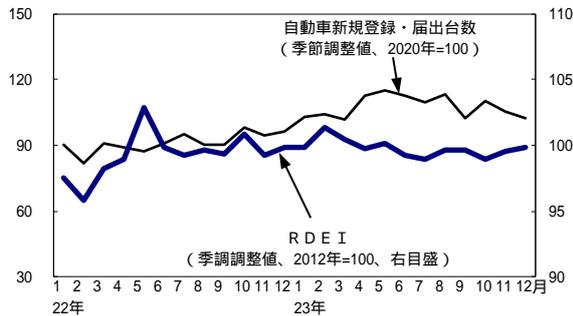
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比5.9%増となった。月別にみると、10月は前年同月比6.6%増、11月は同7.1%増、12月は同4.5%増となった。



	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	0.0	0.7	0.6	0.3
百貨店・スーパー(*2)	5.9	6.6	7.1	4.5
百貨店(*3)	11.0	12.3	12.9	8.8
スーパー(*3)	2.2	2.9	3.1	1.0
コンビニ(*3)	3.1	1.5	7.2	17.7
乗用車(*4)	9.6	13.8	11.1	3.7
(季節調整値)(*4)	2.2	7.2	4.3	2.5

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

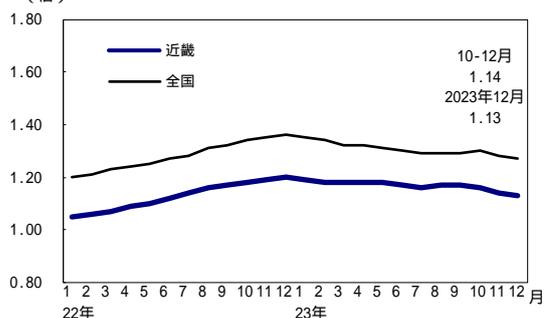
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

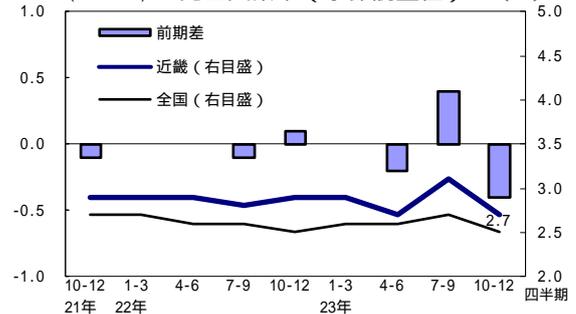
雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある(P9参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している(P10参照)。完全失業率は前期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率(季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率(季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

8. 近畿

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・値上げの動きに所得の増加が追い付かず、低価格品を求める消費者が増えたと感じる（スーパー）。
		▲	・年明けからの能登半島地震の影響で、海外からの旅行客が減少し、インバウンド売上はかなり落ち込んだ。さらに、海外のブランド品を中心とした値上げにより、国内客の売上も減少に転じている（百貨店）。
		○	・海外からの個人客の動きが大きく増えた。クリスマスから年末にかけても、客室稼働率が90%を超えるなど、好調を維持している。1月初旬はやや落ち着いているが、中旬以降は団体客の予約が多く、好材料となっている（都市型ホテル）。
	企業 動向 関連	□	・商品の値上げが続いており、仕入原価は上がっている一方、販売先に値上げを通知しても認めてもらえないケースがあり、利益率は低下している（その他非製造業 [機械器具卸]）。
		▲	・車載用の電子部品向けの出荷が減少している（化学工業）。
		○	・確定的な受注ではないが、取引先の投資計画に応じた引き合いが増えており、徐々に景気が上向いている気配がある（一般機械器具製造業）。
	雇用 関連	□	・求人数は伸びているが、求職者数が減っており、マッチングがうまくいかない（民間職業紹介機関）。
○		・就職内定率や求人依頼数が、前年度と比べて1割程度伸びている（学校 [大学]）。	
その他の特徴 コメント			□：来客数に大きな変化はないが、客の節約志向は明らかである（コンビニ）。 ▲：能登半島地震の発生により、北陸地域の予約がほぼキャンセルとなった。風評被害もあり、新たな予約はみられない。また、株価上昇の影響は一部の富裕層への恩恵にとどまり、物価の上昇が徐々に旅行への支出に悪影響を及ぼしている（旅行代理店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連	□	・先の見えない物価の上昇による節約志向により、少しずつお金を使うのではなく、使うところには少々高くても使い、使わなくても済むところにはお金を極力使わないなど、2極化の動きが目立っている（一般レストラン）。
		○	・インバウンドを中心とした消費の拡大に伴い、雇用環境の改善や給与の増加が進めば、住宅市場に好影響が出始める（その他住宅 [情報誌]）。
	企業 動向 関連	□	・物価が上がり、材料価格なども上がっているが、値上げができない（その他サービス [自動車修理]）。
		▲	・春の賃上げや、鋼材などの材料コストの上昇が見込まれるが、価格への転嫁が順調に進まず、採算の悪化が予想される（金属製品製造業）。
雇用 関連	□	・大手自動車メーカーの生産再開のめどが立たず、不安定である（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			○：今年はオリンピックイヤーであり、日本代表の選考などでスポーツ行事が活発になるため、施設の利用者が増える（その他レジャー [スポーツ施設]）。 □：春闘の行方を見守りたい。大手企業を中心に賃上げムードではあるが、物価の上昇を打ち消すほどの賃上げを、中小企業ができるかどうかが目される（窯業・土石製品製造業）。

(D I) 現状・先行き判断 D I（近畿）の推移（季節調整値）

